

キヤノン株式会社

2017 年第 1 四半期 決算説明会【主な Q&A 要約】

Q1. 第 1 四半期の業績は力強いものだったが、年初の想定に対してどのような変化があったか？

A1. 大幅な増収増益が達成できた背景には 3 つあり、1 つには現行事業が景気回復とともに非常に順調に回復したこと。次に、今まで手掛けていた新規事業が想定通りに伸びたこと。そして昨年末に新たにグループに加わった東芝メディカルシステムズ社(以下 TMSC)の連結効果が出ていること、が挙げられる。全て良い方に出たことが当初想定を上回る結果に繋がった。中でも一番大きな要素は、レーザープリンター、カメラが増収増益に転じたことである。

Q2. 今年は新規事業は伸ばし、既存事業も昨年に対して比較的良好な状況が続くと思われるが、第 2 四半期以降はどう捉えているのか？

A2. 特に大きな悪化要因は現時点では考えられないが、地政学的リスクやトランプ政権の動きが事業に与える影響は排除できず、若干の不安要素は織り込んでいる。ただし、既存事業の回復と新規事業の伸長については年間を通して既に含まれている。

Q3. 有機 EL パネルの旺盛な需要、及び関連した設備投資の景気はいつ頃まで続く見込みか？

A3. 現在の当社の見通しでは、2018 年くらいまでは続くものと見ている。

Q4. TMSC の第 1 四半期における連結効果を定量的に聞かせてもらいたい。

A4. 第 1 四半期の全社の営業利益は対前年で+356 億円となっており、その約 3 分の 1 が TMSC の新規連結による影響である。

Q5. TMSC の第 1 四半期と年間での利益の貢献度は？

A5. 医療機器の販売は、販売単価が高く、例えば病院等の医療機関に売る時には予め予算を取って初めて販売が成り立つビジネスである。従って、日本市場においては新しい年度に入る前の 1-3 月、当社でいう第 1 四半期に売上が偏る傾向がある。

Q6. TMSC の国内販売比率はどれくらいか？

A6. 約 5 割程度である。

**Q7. 配当の考え方について、前回75周年の時には10円の記念配があったと記憶しているが、今年
は80周年に当たる。業績の推移にも依ると思うが、配当に対するポリシーや増配への条件などがあれ
ばお聞きしたい。**

**A7. 配当は、単年度だけではなく、中長期的な利益見通しや資金繰り、剰余金の水準、キャッシュの
水準を総合的に勘案しながら決めている。これまで周年記念配は実施してきており、今年も第1四半期
の Momentum を維持し、年間で最低でも今回公表している数字以上の利益を創出できれば、80周年の
記念配当を検討したい。**

**本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した
見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績
は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。**